

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191200019
法人名	有限会社 百々
事業所名	グループホーム百々 美濃加茂(ユニット1)
所在地	美濃加茂市加茂野町今泉605番地
自己評価作成日	令和5年12月12日
評価結果市町村受理日	令和6年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2191200019-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、ご家族、職員が、共に泣き・笑い・支え合い・寄り添い、日常生活を共に過ごし、一日の終わりに楽しかった、美味しかった、と感じて頂けるよう、コミュニケーションを図ったり、食事を楽しんだり、皆が楽しく快適に生活出来るような大家族を目指して、職員一同で試行錯誤し一丸となって頑張っています。公園や小学校が近くにあり通学・帰宅途中の子供の声も聞こえ、四季の風景も楽しめる環境にあります。コロナ禍での自粛も緩和しだしておりご家族との交流、季節に合ったイベントの開催を行うことでホーム内で楽しめ、穏やかに過ごせるようなホームにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは交通の便がよい場所にあり、通学・帰宅時間帯には、小学校の子どもの声が届く環境にある。法人として、複数のグループホームを運営をしていることもあり、法人間での研修など、計画的に実施されている。新しい管理者と全職員で、利用者一人ひとりが楽しく穏やかに、大家族の一人として役割を持って毎日を暮らしていけるよう、支援に取り組んでいる。毎月発行する「百々便り」には、事業所の活動報告と共に、家族宛ての手書きメッセージや利用者の顔がわかる写真を添えるなど、利用者の暮らしが伝わる便りとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(1階)

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に、利用者様が百々で、日々の生活を安心し、楽しく、穏やかに過ごして頂ける様、皆様の思いを受け止め、尊敬、思いやりの気持ちを持ち取り組んでいる。	事務所やフロアなどに理念を掲示し、職員は日々の業務の中で確認している。職員は、入職時に理念について説明を受け、常に理念を意識した支援と業務にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々による、施設で紙芝居や朗読会を開催している。 塗り絵やメッセージを通して、学童に通う児童と利用者が交流することの出来る機会を作っている。	ホームの近くには小学校もあり、子ども110番に登録をしている。運営推進会議には自治会長や民生委員などが参加し、様々な意見交換をしながら、以前のような交流の再開を検討している。毎月、地元社協にボランティアの調整を依頼している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、地域包括、自治会、民生委員、家族へ施設の活動報告を行なっている。今後の活動への意見交換や地域行事の確認、災害時の対応などの情報交換を行なっている。	7月からは、運営推進会議を対面で実施している。家族代表は半年ごとで交代をしながら、それぞれの家族に関わりをもってもらうよう取り組みをしている。会議での意見については、発言者を伏せた上で、議事録を作成し行政に報告をしている。	地域にホームの災害対策について知ってもらえるよう、避難訓練を併せた会議の開催や、家族代表以外にも議事録を送るなど、多くの意見をサービス向上に繋げる工夫に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや電話など、定期的な連絡をとることで連携がとれている。不明点や疑問等は会議の場でどうか電話、メールでの確認を行っている。	高齢福祉課、介護保険課とは十分な連携が取れている。また、ホームの玄関前の桜が大きくなり、カーブミラーが見難くなった時には、道路交通課と協議し、対応を行っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故・事件防止の観点から、玄関の施錠については継続し行っている。 2Fの利用者様も玄関に来られるので、2F職員と協力し対応している。	身体拘束廃止委員会や研修については、年間を通じて計画的に実施をしている。身体拘束の定義についても繰り返し確認を行い、職員間で声をかけ合いながら、適切な対応を行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力だけでなく、言葉使いも虐待になる事など、職員全員に周知徹底し、理解を深め、責任ある言動に取り組んでいる。入浴時や更衣時においても身体状況の観察・確認を行い、職員間で情報共有し注意を払い対応を行っている。	虐待防止委員会は、身体拘束廃止委員会と併せて開催している。身体拘束廃止委員会と同様に、年間を通じた研修計画および委員会日程を予定している。虐待防止について理解を深め、互いに意識できるよう声掛けを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修には積極的に参加し、参加した職員は、ミーティング等で報告・発表し、知識の向上に努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の説明や、契約時において、管理者が説明を行い、理解・納得頂いてから同意を得ている。契約後も疑問・質問・要望等や、不安な事には、説明や柔軟な対応に努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話でのやり取りを元に利用者、家族意見を反映させた方針を職員と共に検討している。毎月、施設内の活動写真、個別のメッセージを掲載した百々だよりを家族へ郵送している。	運営推進会議には、各ユニットの利用者家族代表の参加を得て、現状報告や意見交換がなされている。今後、代表者以外の家族も共有できるよう検討している。毎月、手書きメッセージを添えた「百々だより」を発行し、家族から好評を得ている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニットにてミーティングを開催している。管理者が必ず参加を行い、職員と施設運営や活動について意見交換を行なっている。	職員と管理者は、困ったときには何でも相談できる関係ができています。「百々だより」に手書きメッセージを書くようになったのも、職員からの意見からであり、その結果、家族の高評価に繋がった。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	資格取得等は、積極的に行えるように、配慮・推奨している。希望休についても配慮している。	職員の休憩室はフロア別に用意され、ノーコンタクトタイムの確保ができています。職員は、介護支援専門員や介護福祉士取得に向けて前向きであり、管理者は、資格取得の為に研修受講を奨励している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の力量を把握し、職員へ適切な社外研修への参加の機会を作っている。研修後は、研修報告を行い施設内で得た知識、経験を活かせるようサポートを行う。	年間を通じて研修計画を立て、職員が学べる環境が整っている。また、勤務の都合で研修に参加できなかった場合は、資料確認後、学び得たことをアウトプットするフィードバック用紙に記載しながら、個々に学び理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通して、他法人・職種の方々と、意見交換や人的交流をし、質の向上に努めている。感染を懸念しZOOMが主流となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の安全を第一に考え、日常生活での作業を職員と一緒にやり、関わりを深め合い、信頼・安心出来る関係作りに取り組んでいる。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の思いなどを把握し、出来る限りその思いに近付ける様、柔軟な支援を行っている。困難な場合は日常生活の中での言葉や行動・表情から、把握に努めている。	入居時や日々の生活において、利用者個々の思いや意向を把握するよう努めている。日常生活の中で、会話や行動、表情からアセスメントを行い、職員間で情報を共有しながら、ケアに活かしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の日常生活の中での課題について、ミーティングにて、かかりつけ医の意見などを参考にし、利用者様・ご家族様・職員の希望や思いを話し合い、介護計画を作成し取り組んでいる。	担当制ではあるが、職員は利用者全体の情報を把握するようにしている。職員が把握した新たな情報は、ミーティングの機会を通じて、計画作成者がプランに落とし込んでいく。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何気ない言葉や普段見られない行動は記録することとしている。タブレット端末の活用により、個人記録の閲覧が明瞭となった為、プランの見直しに役立っている。	個人記録はタブレット端末を活用して、支援状況や気づきを記録している。また、利用者が、ベッド上にいるときは、呼吸数などが記録される科学的な介護記録も導入するなど、新たな支援方法を実践に繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何か問題が発生した場合等には、素早く、柔軟に、臨機応変に対応を行い、必要な支援を行っている。月に一度は行事の実施、季節に合った楽しめる行事を試行錯誤している。	利用者それぞれの状況や希望に応じて、理美容サービスを提案するなど柔軟な対応を行っている。必要に応じて、外出や受診同行も行うことで、利用者が安心して生活できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアによる紙芝居や演奏会などを施設にて開催して頂いている。福祉大学による、アニマルセラピーやハンドマッサージを体験して頂いている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に必ず、かかりつけ医や、希望する医療機関などを確認し、入居後、希望される医療機関への受診を行っている。現状で月1回の往診で数名の方、月1～2回の往診で数名の方が診てもらっている。緊急でかかる場合の病院も、本人・家族に確認している。	入居時に、かかりつけ医を希望することができる。従来のかかりつけ医を希望する場合もあるが、往診医を希望する場合は、月1～2回程度の診察を受けている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病状や治療の説明を受け、入院中には情報交換を行い、退院後は受け入れがスムーズに行う事が出来るように、看護サマリー等の提供を受けている。	入院時は、ホームでの生活状況などを記した介護サマリーを提供している。また、退院時には必要に応じてリモートでカンファレンスなどに参加し、情報を得て、退院後にスムーズにホームでの生活が再開できるよう支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況変化により、ご家族様と話し合い意向を確認を行い、主治医からの説明も受け、ホームでの受け入れが可能か不可能かを、ご家族様と職員と話し合い、方針を決めていく。	重度化や終末期の対応について、マニュアルを整備し、来るべき時に備えている。利用者の状態変化に応じて、医師、家族、関係者で協議し方向性を定めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、応急手当や初期対応の実践力が身に付いていない。地区で防災訓練を行っており、職員も参加していく。定期的に訓練を実施できると良い。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、通報訓練、避難訓練、消火訓練の総合訓練を行っている。通報訓練については、通報装置だけではなく、固定電話や携帯電話からの実施も行っている。	年2回、火災を想定した避難訓練や通報訓練を実施している。実際に利用者も避難行動を行うことで、有事に備えた対応ができるよう取り組んでいる。災害備蓄品は2階に置いてある。	様々な災害に備え、地域関係者と共に、個々の役割について検討を行う事が望ましい。災害時において、利用者及び職員が安全に避難できる体制を整えることに期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を行っている。	年間研修計画には、接遇や人権尊重、プライバシー保護等、テーマを設けている。職員は利用者との長い関わりにおいて、馴れ合いになることなく、常に年長者に対する敬意を忘れずに、誇りやプライバシーを守り、寄り添う支援に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話や表情、反応を観察して、その方の希望や、思いを把握できるよう努力し、利用者様本人が自己決定できるように努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりに合わせ急かさず、本人の意志を確認しながら支援している。レクリエーションや作業への参加を強制することなく一人ひとりに意思決定出来る声掛けを心がけている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備をする際、出来る事をお手伝いしてもらい、味見もして頂くこともある。食後の食器洗浄やお盆拭きなど、片づけにおいても役割を持ち、利用者様同士が協力して日々取り組んでいる。	食事は毎食、職員が手作りしている。調理の時間も利用者との関わりの機会と捉え、利用者も出来ることで参加できるよう支援している。利用者に美味しい食事を提供したいと、岐阜県産の米を指定して仕入れている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、1日3回の食事量・水分量を記録し栄養状態・水分がしっかり摂取できているか、体調管理の目安にしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが実施出来ており、必要に応じて声掛けや介助を行なっている。歯科医師の往診により治療に限らず、希望者は定期検診を月2回行なっている。	訪問歯科診療があり、希望をすれば月2回程度の往診を受けることができる。利用者は、それぞれに口腔ケアを実施し、自身でのケアが難しい利用者の場合は、職員が介助と確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの身体機能に合わせ、見守りもしくは、誘導や介助の度合いを見極めながら対応している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その時々々の健康状態に応じ、平等になるよう入浴の日程や時間を調整するようにしている。 洗身は出来ないところをお手伝いし、快く入浴できるように努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し、シーツ洗濯などを行い、気持ちよく休んで頂ける様に心がけています。 居室の温度・湿度も配慮している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の受診内容や薬情を職員間で情報共有を行なっている。服薬時は、Wチェックを基本として誤訳を防ぐようにしている。 薬の変更や追加、頓服薬がある場合は服薬後の体調変化を記録する事となっている。	服薬支援については、最大限の注意を払うようにし、声出し確認などをしながら、誤薬防止に努めている。薬が変更されたときは、職員間で申し送りを行い、利用者の状態変化がないか、注意している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品づくり等で、一人ひとりの能力や個性に見合った役割分担を行い、会話を交えながら楽しんで頂けるよう支援している。	個々に塗り絵やちぎり絵を楽しんでいる。また、季節に応じて大きな作品を手分けしながら制作し、共用空間に掲示している。マニキュアを塗るなど、お洒落を楽しんでいる人もある。希望があれば、酒類の提供などにも対応している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等を計画・実施したり、毎月季節を感じられるようなレクを行ったり、日々の会話の中で希望が出れば、利用者様の体調や天候を考慮し散歩したりしている。感染予防で制限はあるが、出来る範囲で行っている。	ホーム周辺を散歩して、外気に触れられる機会を作っている。春先には、玄関前にある桜を、皆で眺めることを楽しみにしている。また、家族との外出は、制限付きではあるが、利用者の大切な時間と捉え、現在は可能としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様には、ご本人に金銭は所持しないようお願いしている。買う物は利用者様に選んで頂き支払いは職員が行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人や、ご家族様の希望に沿った支援を行っている。電話をするときは、静かな所でゆっくりとお話ができるように努め、手紙や荷物が来た時はご本人に渡している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた内容の壁紙に毎月変えている。トイレや浴室、居室にはドアに名前の張り紙を付け、誰もがわかるように工夫している。	ホームの庭にはベンチが置いてあり、地域住民が立ち寄ることができるようになっている。リビングでは、利用者と職員が、ちぎり絵などを一緒に作成したり、節分の鬼などを作っている場面を見ることができた。ゆったりとしたソファや複数の食卓が設置されており、利用者は、気に入った場所で過ごすことができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルは食事を皆で楽しめる様に配置している。独りになりたい方は自室でゆっくりと過ごしていただき、それぞれがくつろぎやすいように配慮・工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様には入居の際、ご本人が、今まで使用していた馴染みの家具や布団など、特に持ち込みに制限はしていませんと説明している。本人にとって少しでも安らげる空間作りに努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事は、職員も介助し過ぎず、機能を維持できるよう努めている。歩行場所には障害物を少なくし転倒防止に心がけている。		

2 目標達成計画

事業所名： グループホーム百々美濃加茂

作成日： 令和 6年 4月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	24	防災訓練を年2回実施しているが、地域との交流が乏しく連携、役割作りが難しい。	近隣との協力体制を築き、避難誘導や対応を身につけられるようにする。	運営推進会議や自治会に働きかけ、地域と共に防災活動を実施したい。	12 か月
2					か月
3					か月
4					か月
5					か月

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。